
日付：2005 年 12 月 2 日

提出元：NTT 東日本

題名：き線点等に設置する xDSL 検討モデルについて

1. はじめに

本寄書は、き線点等に設置する xDSL 検討モデルについての検討課題を提案するものである。

2. き線点等に設置する xDSL 検討モデルの検討課題について

本モデルの検討課題を以下のように提案する。

なお、弊社提案課題の不足項目については、適宜追加すべきと考えている。

(1) 検討範囲の明確化

き線点等に設置する xDSL モデルの検討にあたっては、() NTT ビルから利用者宅までの距離、() き線点 xDSL 等の設置場所から利用者までの距離、() き線点 xDSL 等の出力レベル、() き線点 xDSL 等の使用周波数帯域により共存条件が変化するものと考えられる。

現在、G.993.1 Annex F による検討が提案されているが、当該伝送方式のみを検討対象とすることにより、後から検討される伝送方式に制限が加わらないかの懸念を持っている。

弊社は既に提案されている G.993.1 Annex F の他に JJ100.01 第 3 版 G 章に規定される PSD マスクを利用する ANSI T1.424 FTTEEx 用 Mask2 や、現在各社 ADSL の主力サービスであるクワッドスペクトルの ADSL 等、PSD の出力レベルや使用する信号周波数帯域の異なる複数の伝送方式で検討を行い、共存条件を検討すべきものと考えている。

(2) NTT ビルから提供される xDSL への漏えいによる影響の評価

影響評価にあたっては、以下の検討が必要と考える。

干渉計算モデルの見直し

守られる伝送システムの明確化と基準値の扱い

引込み線の扱い

PBQ、使用周波数の一部制限（VDSL における 640kHz OFF 等の利用）による効果の評価

(3) き線点、分岐点、引き込み点に設置される xDSL 相互の共存条件の評価

(2)項を考慮した評価モデルの明確化

共存条件の明確化 リンク断しなければ良いのか？基準値の設定？

PBQ、使用周波数の一部制限（VDSL における 640kHz OFF 等の利用）による効果の評価

分岐点等設置場所間の離隔距離の評価

以上